

特集 「阪神・淡路大震災と外国人」

今回は、阪神・淡路大震災時の外国人県民の状況や支援について取り上げます。また、震災の教訓をもとに始められた取り組みを当センター所蔵の関連資料とともに紹介します。



震災時の外国人被災者の状況

震災当時、兵庫県には、約10万人の外国籍の人が居住していました。外国人の死亡者は166人で、そのうち韓国・朝鮮籍が108人、中国籍が41人となっています（注1）。兵庫県内の震災による死亡者に占める外国人の割合は3.0%で、当時の兵庫県人口に占める外国人の割合1.8%よりも高い数値となっています。

震災後、特に、1970年以降の比較的新しい時期に来日した外国人の多くは、日本語が不自由なため、情報が届きにくく、文化的な背景の違いもあり、避難所で日本人との摩擦に直面しました。また、健康保険に未加入だった一部の外国人負傷者は、医療費の全額が請求される事態になりました（注2）。

外国人県民への生活情報の提供が滞る中、震災から2日後、兵庫県警は、生田庁舎内に、英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語などによる24時間体制の相談窓口を設けました。表1から、「友人等の安否確認」以外に、「生活の不安・帰国相談」、「ボランティアの申し出」などの相談が多く寄せられていることがわかります。また、NGO、各種外国人団体、教会などが連携しながら、被災外国人県民の受け入れや外国語による生活相談、情報提供など様々な支援活動を行いました。

表1 兵庫県警察本部「外国人相談コーナー」での
相談受理状況（1月19日～2月17日）

| 相談内容 | 相談件数 |
|---------------|-------|
| 友人等の安否確認 | 1,013 |
| 生活の不安・帰国相談 | 165 |
| 外国通信社からの問い合わせ | 18 |
| 外国公館からの問い合わせ | 53 |
| ボランティアの申し出 | 114 |
| 留学生等の受入れ申し出 | 11 |
| 協力の申し出 | 45 |
| その他 | 285 |
| 総数 | 1,704 |



震災から1ヵ月後、「外国人県民復興会議」が設置され、幅広い観点からの意見や提言が出されました。

出典：（財）都市防災研究所『阪神・淡路大震災における
在日外国人被災状況調査』1995年、p.20

注・引用文献

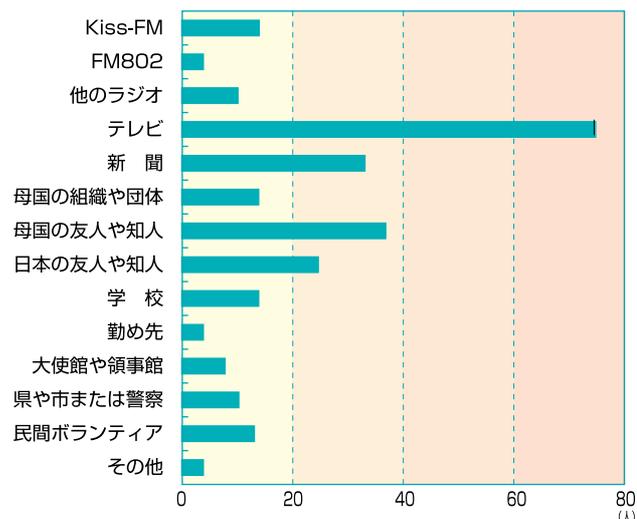
- 1) 厚生省大臣官房統計情報部「人口動態統計からみた阪神・淡路大震災による死亡の状況」
- 2) 外国人地震情報センター『阪神大震災と外国人』1996年、p.14-15

被災外国人県民へのマスメディアの対応

震災直後から、様々なマスメディアにより被災状況や生活情報が提供されましたが、外国人県民に対しては十分ではありませんでした。その中で、英語が堪能な外国人DJがおり、外国人リスナーが多かった兵庫FM（Kiss-FM）、FM802などでは、震災直後より、外国人向けの放送を実施しました。

表2の被災外国人県民に対するアンケート調査では、地震発生後に情報をどこから得たかの質問に対し、最も多かったのはテレビであり、全体の75%を占めています。それに次いで、母国・日本の友人知人からの口コミ、新聞、ラジオが多くなっています。

表2 地震発生後の情報入手方法（複数回答）



※ 調査期間: 1995年4月
調査対象者: 神戸市内の在日外国人100人

出典: (財)都市防災研究所「阪神・淡路大震災における在日外国人被災状況調査」1995年、p.46

復興過程における外国人県民支援の取り組み

震災復興に外国人県民の意見を反映させることを目的として、震災後、「外国人県民復興会議」が設置され、外国人県民の視点からの復興に関する提言がとりまとめられました。その中には、外国語による生活情報の提供、外国人が安心して受診できる医療体制など、「暮らしやすいまち」をはじめ、「このころの国際化」、「交流」の3つの視点からの提言が盛り込まれました。

外国人県民支援の取り組み中で、実現している施策の一部を紹介します。

外国語で対応可能な医療機関の情報提供

(財)兵庫県国際交流協会と兵庫県は、兵庫県医師会の協力を得て、外国語で対応が可能な医療機関を調査し、ホームページ上で、医療機関名、診療科目、対応言語などの情報提供を行っています。

HPアドレス http://www.hyogo-ip.or.jp/jp/info/info04_a.htm

在住外国人のための多言語生活ガイド

平成13年度に、兵庫県、NGO、阪神7市1町との協働により、外国人県民が日本で生活するうえでの、基本的な生活情報を掲載した多言語生活ガイドホームページ（12言語）を作成しました。地震、台風などの緊急時の対応をはじめ、医療、教育、交通機関など13項目についての情報提供を行っています。

HPアドレス <http://www.hyogo-ip.or.jp/livingguide/index.html>

ひょうごE（エマーゼンシー）ネット

兵庫県は、予め登録した携帯電話などに、外国人に対する災害・避難情報などの緊急情報を5言語に翻訳して配信するシステムを整備しています。ひょうごEネット (<http://bosai.net/e/>) から登録できます。登録方法については、ひょうごEネットのホームページ (http://bosai.net/e/regist/multi_en.html) をご覧ください。

所蔵資料から見る震災時の外国人県民支援

当センターには、当時の外国人の状況を伝える多くの資料が収蔵されています。その中から、以下の資料を紹介します。



「FMわいわい」放送テープ

震災後、神戸市長田区で韓国・朝鮮語放送を行っていた「FMヨボセヨ」と、ボランティア拠点「たかとり救援基地」（現在の「たかとりコミュニティセンター」）内で、5言語で震災情報を伝えていたミニFM局「FMキューメン」が一つとなり、1995年7月にFM局「FMわいわい」（写真左）が誕生しました。現在は、10言語で放送しています。

1995年3月5日から2002年1月31日までの放送の音声を取めたビデオ、MDなどが多数収蔵されています。

「FMわいわい」は、震災の経験を生かし、2004年10月に発生した新潟県中越地震では、被災地長岡市のコミュニティFM局に、震災・災害情報を多言語で提供したり、携帯ラジオを寄付するなど、支援の輪を広げています。



関連図書紹介



震災時の外国人県民に関する図書・資料です。資料室に所蔵していますので、関心を持たれた方はぜひお越しください。

| 題 名 | 著者・記事作成者 | 発行者・発行者 |
|--|------------------------|--------------------------|
| 「世界にひらかれたまち」をめざして 外国人県民復興会議からの提言 | | 外国人県民復興会議 |
| 阪神大震災と外国人 | 外国人地震情報センター | (株)明石書店 |
| 阪神・淡路大震災 その時 留学生はー神戸が好きになりましたー | 鈴木正幸 | (有)川島書店 |
| 阪神・淡路大震災における被害外国人学生の 支援活動と心のケア | 加賀美常美代、箕口雅博、 瀬口郁子 他 | (株)ナカニシヤ出版 |
| 阪神大震災と華僑 | 安井三吉、陳来幸、過放 | 神戸商科大商経学部・ 神戸大学国際文化学部 |
| シンポジウム 災害弱者をどう救うのか ～外国人への情報提供を考える～ | 名古屋大学災害対策室 | 名古屋大学 |
| 阪神淡路大震災から10年ー外国人と共に暮らす まちをめざして | | NGO神戸外国人救援ネット |
| 阪神淡路大震災 被災ベトナム人救援ニュース ベトナム語版 | | 被災ベトナム人救援連絡会議 |
| 阪神・淡路大震災におけるアジア系定住者の生 活ネットワークの変貌と再生への展望 | | 神戸商科大学舟場研究室 |

集合! いろいろ『防災ゲーム』で遊ぼう! & セッション『防災学びの現在を語ろう』

今年も、8月に当センターにおいて、夏休み防災未来学校が開催されました。資料室は、8月25日に開催された「集合! いろいろ『防災ゲーム』で遊ぼう!」と、「セッション『防災学びの現在を語ろう』」というプログラムに参画しました。

「集合! いろいろ『防災ゲーム』で遊ぼう!」では、遊びをとおして防災や震災を学べるツールである防災ゲームを開発している諸団体の方に来ていただき、ゲームのやり方を教えていただきました。NPO法人「プラス・アーツ」からは、「なまずの学校」(写真右)、「神戸学院大学 学際教育機構 防災・社会貢献ユニット」からは、「レッツ防災スゴロク」、阪神・淡路大震災まち支援グループ「まち・コミュニケーション」からは、「御菅カルタ」を実際にやってもらいました。当日は、3つのゲームをあわせて、53名の方にご参加いただきました。



また、「セッション『防災学びの現在を語ろう』」は、防災ゲームのプログラム後に開催されました。ゲームを提供していただいた3団体の方々から日頃の活動の紹介やゲーム作りの課題を聞くことができました(写真左)。参加者からは、「最新の防災教育を知ることができる充実した企画だった」、「防災教育を実践している方々が、自分の被災体験に向き合い、子どもたちに伝えたいという思いを原点に防災教育に取り組んでいることがわかった」などの感想をいただきました。

初めて外部の団体と連携して開催した防災未来学校でしたが、各団体を持つ多様な知恵を学ぶことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

資料室移転のお知らせ

防災未来館の展示リニューアルに伴い、資料室が2階から5階に移転します。この工事のため、10月16日(火)から10月29日(月)までの期間閉鎖いたしますので、この間は電話による相談のみとなります。10月30日(火)に5階にてリニューアルオープンいたしますので、中庭の開放とともに快適な空間として生まれ変わった資料室を是非ご利用ください。

(防災未来館のリニューアルオープンは平成20年1月上旬予定)

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念

人と防災未来センター 資料室(防災未来館2F)

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL.078-262-5058 FAX.078-262-5062

HPアドレス <http://www.dri.ne.jp>

開室時間 9:30~17:30(7月~9月は18:00)

閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日) 12月29日~1月3日

資料室は無料でお入りいただけます